

## 平成 28 年度第 1 回県立長野図書館協議会議事録

1 日時 平成 28 年 7 月 20 日（水） 10：00～11：35

2 場所 県立長野図書館第 2 会議室

### 3 出席者

<委員（五十音順）>

伊藤直子委員 小林いせ子委員 玉城司委員 森泉浩行委員 山口登委員 山崎久子委員

<長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課>

山寄課長補佐兼総務係長 降旗主事

<県立長野図書館>

平賀館長 下平企画幹兼次長兼総務課長 阿部企画協力課長 高橋資料情報課長

町田専門幹兼資料係長 北原情報係長 町田主幹 関主査

### 4 会議次第

(1) 開 会

(2) 館長あいさつ

(3) 会議事項

ア 平成 28 年度県立長野図書館事業について

イ 図書館改革事業について

ウ その他 委員の改選について

(4) 閉 会

### 5 会議の概要

（開会前に改装した一般図書室（2階）及び企画展「信州 山の見えるまち 山のみえる図書館」を視察）

（下平次長）

ただいまから、平成 28 年度第 1 回県立長野図書館協議会を始めたいと思います。

県立長野図書館の平賀館長からごあいさつを申し上げます。

（平賀館長）

今日は暑い中ご出席いただきありがとうございます。図書館の改革ということで 2 年目に入りました。「人」「情報」「空間」に注目して行っているわけですが、お金もままならないところもあり、見た目に「お！」というところはないかもしれませんが、職員も考えながら行動していますし、あるいは、県内の市町村立図書館と一緒に話し合いをする機運も出てきています。まだまだ時間はかかるかと思いますが、みんなで論議しながら変わっていくことを続けていきたいと思っています。今日は、どうかよろしくをお願いします。

（下平次長）

議事に入りたいと思います。ここからの進行につきましては、玉城会長にお願いしたいと思います。

（玉城会長）

玉城です。よろしくをお願いします。

図書館の 1 階は去年とは少し変わり、2 階は随分開放的で明るくなったと感じた。ソフトの面で我々

も非常に「楽しみ」だと感じた。

公共的施設等総合的な管理による老朽対策の推進について総務省からこの3月にでています。長野県においては、6月17日に「県内市町村の公共施設マネジメントについて」という通知が出ていますが、県立長野図書館としては、公共施設の管理のなかで老朽化対策がなされていると思いますが、あえて、県としては県立長野図書館をどう考えているのか、また、明るく開放的になったと思いますが、老朽化は否めないと思います。対策は10年間計画にするよう総務省から通知されているが、それについて対策をとっていただけていると思いますが、やっていただくようお願いしたい。

総務省からでている3本の柱の二番目は、「まちづくり」なんですけど、山の日の企画展示でどこにどんな山があるのか、これはまちづくりの一つだと拝見した。

「国土強化、強靱化」という別の柱があるが、これは耐震化・点検整備をきちんとやりなさいと、10年後に新しいものを造るとしても、10年間はほっておくわけにいかないので、絶えず県民の考えながらそうしろということだと思うので、県と相談しながら、構造的な問題、つまり老朽化対策のソフトな面では充実してきなと感じます。ハードな面につきましてもさらに充実させていただきますようお願いしてあいさつとします。

今日の議題は、平成28年度の事業の進め方についてであります。はじめに、県立長野図書館からの説明を受けた後、委員の皆様から御質問、御意見をお伺いしたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(阿部企画協力課長)

今年度、県立長野図書館で実施した事業、実施を予定しています事業をご説明します。

冒頭、館長が説明したように、図書館改革の一環として事業を実施しています。資料1ページの1～16番の既存の事業を含めた研修会等になっています。8番までは既に終了となっています。図書館改革の構想にしたがって事業を展開しています。代表的なものにつきまして次ページをご覧ください。

「昭和の図書館（旧上伊那図書館）見学と課題解決型図書館について語る集い」を5月2日月曜日に伊那市創造館、旧上伊那図書館で開催しました。昭和5年に建てられた旧上伊那図書館が所有していた開館前後や戦時中の図書館の姿のわかる資料・書籍などを展示する企画展を、冒頭参加者が見学しました。近代の図書館が地域に果たした役割を確認し、第2部としてトークセッションでは、グループ討議を行いました。かつての図書館が果たしてきた役割、これからの図書館の役割、地域課題解決に資する図書館としてどういう方向を目指していくかについてグループ討議を行いました。

図書館から外へ出てみる、より積極的に地域の方々とのコミュニケーションし、それにより、課題解決につながっていくという話ができました。

次に、(2)の平成28年度長野県公共図書館長会議につきましては、例年開催しているところですが、今年につきましては、前塩尻市立図書館長の伊東直登氏に、「塩尻市立図書館が目指している図書館づくり」と題して講演をしていただきました。図書館のありかたの改革につきまして、既に塩尻図書館が先進的に取り組んでおり、その事例を学ぶというものでした。その後、出席者が4グループに分かれて、資料のデジタル化、課題解決型図書館への取組、館の運営の3テーマについて各館共通の課題について意見交換を行いました。

(3)の「可能性を形に。これからの「図書館」想像（創造）会議」は、図書館という公共空間が果たす役割、必要な機能は何かなどについて考えるワークショップとして連続して開催しているものです。

第一回の6月18日は、建築家の三浦丈典氏が講演を行い、公共空間はどのようにあるべきか、ご自身の体験から講義をいただきました。翌日の19日は前日の講義を踏まえ、グループに分かれて、公共空間をどう作っていくかワークショップ形式で議論しました。このワークショップは信州大学工学部学生を中心に企画・運営してもらっており、8月、10月にも開催予定です。

次に、7月1日には「(4) 都道府県立図書館サミット 2016～直接・間接・併用の議論を超えて ― 新しい都道府県立図書館モデル」を新しい試みとして塩尻市のえんぱーく（塩尻市立図書館）で開催しました。

都道府県立図書館が果たす役割については、市町村立図書館と違ってあいまいになっているという中で、将来的な役割がどうあるべきか全国 34 都府県から図書館長をはじめ関係職員が参集し、民間事業者、県内市町村立図書館長や一般参加者を合わせて 150 人が集まり議論しました。賛同者による「都道府県立図書館サミット宣言」も採択しました。

これからの予定ですが、「(5) これからの図書館実現フォーラム 1」、これは例年行っています長野県図書館大会公共図書館部会の分科会も兼ねています。これからの図書館の目指すものについて議論を深めたいと思いますので、多くの県民に参加していただきたいと思います。元昭和女子大学特任教授 大串夏身さんを講師として基調講演を行い、その後、Library of the Year を受賞した小布施町立図書館、伊那市立図書館、塩尻市立図書館の元図書館長によるディスカッションを行います。Library of the Year は、先進的な図書館活動に対して授与される賞で、10 年の歴史の中で長野県の市町から 3 館が受賞しており、実は先進的な取り組みをしている県という外部の評価も得ているわけです。これからの図書館のあり方を県民の皆様と一緒に考えていきたいと企画しました。また、同趣旨のフォーラムを小諸市立図書館開館 1 周年に合わせて開催する予定です。

この表以外にも、信州大学、県立歴史館とかと資料情報の共有化、避けて通れない資料のデジタル化、電子書籍の導入のフォーラムを行い、研究会を立ち上げます。さらに、県内の小中学校、信州学がはじまる高校との連携、支援をどうするかなどのフォーラムの開催などを企画中です。

本年度の取組みについては、以上ですが、3 ページ以降については、ご説明しましたものの再掲です。5、6 ページにつきましては、改革事業といわれるものとは別体系でございますが、従来から実施しているものと、県図書館協会と共同で実施していますステップアップ研修を記載しております。5 ページに記載しました 9 月 7 日の皇學館大学教育学部教育学科助教 小幡章子さんを招いての子ども読書を考える講演「読み聞かせを卒業していく君たちへ」は、ヤングアダルト世代、いわゆる本を読まなくなりつつある世代の子どもたちとの関わり、アプローチを考えていくものです。

館長が申しあげましたように、改革はこの 1 年、2 年で完結していくわけではありません。県民の皆様新しい事業を周知していくことが非常に大事と思っています。平成 29 年度以降も、同じような形でフォーラムを開催していき、県民、市町村図書館にも意識の醸成を図っていきたく存じます。

説明は以上です。

（高橋資料情報課長）

資料 10 ページの、当館の「図書館改革事業」の「「情報」の改革」のうちの「ハード機器整備」及び「「場」の革新」のうちの「ハイブリッド図書館」を中心に、今年度の実施状況をご説明します。

7 ページの「一般図書室リニューアルオープンのお知らせ」、8 ページの「県立長野図書館図書室案内図」をご覧ください。

本の情報とデジタル情報を扱う図書館のモデルとして、6 月から先ほど見ていただきましたように、2 階の一般図書室をリニューアルし、利用方法に応じて、4 つのゾーン分けを行いました。入って左側の「ナレッジ・ラボ」は、情報リテラシー関係の研修・ワークショップスペースとなります。

「メディア・スクランブル」は、PC ゾーンと逐次刊行物コーナーがあり、PC ゾーンには新たにタブレット端末を 8 台設置、データベースとして従来の信濃毎日新聞データベースなどに加えて、新たに朝日新聞社の「聞蔵」、日本経済新聞社の「日経テレコン」が利用できるようになりました。「聞蔵」では朝日新聞、また、週刊朝日などの雑誌の記事検索、現代用語事典や人物データベースが利用できます。「日経テレコン」では、日本経済新聞の記事検索、企業・人物検索で全国主要企業の基礎情

報や人事を検索できます。また、各種のデータランキングを調べることができます。

「ジェントル・ノイズ」は、従来型の館内資料の閲覧等を行うゾーンです。

最後に、「サイレント・コクーン」は、静かな環境で調査研究を行うための2、3人用の個室となります。

これまでは、利用者の要求もあり、図書室内はできる限り静かな環境を保つようお願いしてきましたが、学びのスタイルに応じて様々な利用の仕方ができるようにいたしました。

今後は、「図書館改革事業」の「人」の変革にあるように、県民の学び合いの場になり、新たな知が生まれるような空間としてナレッジ・ラボを利用するなど、それぞれのゾーン分けに応じて利用を促進してまいりたいと考えております。

9ページの山の日企画展「信州 山の見えるまち、山の見える図書館」をご覧ください。8月11日が国民の祝日として山の日に制定されたこと、7月15日から信州山の月間が始まったこと、7月24日が信州山の日であることなどを契機に、信州の山について考える企画展示を8月14日まで開催しております。県内公共図書館から見える山の写真展示、「信州の山岳」文庫の展示、貸出等を行っています。

配布資料としてはありませんが、8月に夏休み企画として、普段公開していない書庫を案内する子供向けのバックヤードツアーを行います。また、法情報データベースを使ったデータベース調べ方教室を大人向けと子供向けとに分けてやはり夏休み企画として開催します。以上でございます。

(玉城会長)

以上の2点で質問、意見がありましたらお願いします。

(伊藤委員)

2階の図書室がリニューアルされて前と雰囲気が変わり、明るく開放的に素敵になったなと思いました。リニューアル後の利用者の声や、流れがこんな風にかわったということがあれば教えていただきたい。

(平賀館長)

空間を変えましても、日常的に利用されるお客様は同じ方なので、どちらかというと戸惑いの声の方が多いかと思いますが、「ノー」という強い声が上がっているわけではありません。

実際のところデジタルな情報源にいたしましても使い方がまだまだ浸透していないなかで、これからの課題としては、もちろん知の中身もですが、そういうものに触れていただくためのハードや情報源の使い方をサポートさせていただくプログラムを仕込んでいこうと思っています。それにより新しいお客様や今までのお客様にもまた違う図書館の使い方を楽しんでいただければと考えております。

しかし、空間を変えても利用者は変わらないのが現状です。先ほど見ていただいたように、新聞の利用者が相変わらず多い状況です。

(伊藤委員)

夏休みになると学生等が来て少し変わりますか。

(平賀館長)

学生は、3階の学習室に上がってしまうので、なんとか途中の2階に立ち寄ってもらうことも含めて考えていきたいと思っています。

(玉城会長)

今の話題に関連して、申し上げたいと思います。

新しくできる長野県立大学の学生にとっては、「聞蔵」とかデータベースが絶対的に必要なものになるのです。

そうすると、今、三輪に県立短期大学の図書館があって、そこには1台か2台あるかもしれません。

けれども現実的に今後かなりの予算をかけて、長野県は県立大学にああいうものを入れるんですね。多分、必ず入れると思います。新聞のデータベースは大学の必需品ですから。そうしますと早目に連携して、県立大学と図書館を結んで、新聞のデータベースは高いものですから、両方で使えて、なおかつ県立大学の学生はここに来るのだ。ここでそれを使えれば十分だと、三輪の大学には別の物があるからいいというようなシステム作りをしていけば、学生の取り込みはできるのではないかと。やはり交流がないとまずいんじゃないかと。そういう一案を県でも検討していただきたい。そうすると学生が教えてくれれば、より来る方が親しみを持てるような気がします。すぐ実現できるかどうかわかりませんが。

(平賀館長)

前回もお話をいただきましたが、まだ、その動きをつかみきっていません。ぜひ考えたいと思います。

大学に限らず、村や小さな町ですとお金をかけてこういうものを入れることは難しいですね。県立図書館といくつかの村や町と共用できないかという交渉もはじめていますので、この空間だけで使うのではなく、大学ももちろんですし、県立長野図書館の支援が必要な村や町にもそういった基盤を整えることに協力するという方向で考えています。特に県立大学はそうですね。

(玉城会長)

お願いします。必要なものだと思うのです。だけど今のお話のなかで情報機器を使うということは、年輩の人には遠い存在かもしれません。でも若い人が来て使ってくれれば、自分たちもこういう風に使えらるんだとわかるんです。私のような年寄りにも。図書館にとっても良いし県立大学にとってもプラスになるはずだと思います。

ご検討をお願いします。

(平賀館長)

信州大学に読売新聞データベースがないので、周りの公共図書館と共同で導入できないかという話もあり、これから松本市立図書館を含め話したいと思っています。

(玉城会長)

行政のことは分からないのだけれど、国立の行政法人より、同じ県立、県内の機関との方が話が通じやすいのではないかと思います。県同士の方が。

(平賀館長)

工夫してまいります。

(玉城会長)

どこでもいいから、共有できるものはどんどん共有してもらった方がありがたい。

(小林委員)

館内を見せていただいて、県立長野図書館でも変わられるのだ、というのが第一の印象でした。地元の図書館はどうかと思った時に、先ほどちょうど閲覧室に地元の図書館をお辞めになった方がいまして、「これすごいよね」と言いましたら、「ぜひうちの方の図書館も変えてください」と言われたんですけど、これまでなかなかこのようにはいかなかった。もうちょっと頑張れるのだと思った。

2階がすごくおしゃれになりました。でも、来ている方が変わらないという先ほどの館長の話でしたけれど、ナレッジ・ラボ、メディア・スクランブルとかおしゃれな横文字が付いていまして、これは和のすてきな名前に変えられなかったのかしらと思いました。信州らしい言葉遣いを大事にしてほしいと思いました。

1階の床地図に図書館のある場所に印が付いていましたけれど、地域による大きな差、あれは県民にお見せすべきだと思います。図書館があるということは、知の拠点であり、文化の程度が住民同士でわかると思うのです。あんなことを発信していただければうれしいなと思ったのです。

先ほど、県立大学の話が出ましたが、今の県立短大の図書館は静寂感そのもので、開かれた図書館

になるようにこちらからアドバイスとか、影響を少しは出していただければ、学生も少しは使いやすい図書館になると思いました。信毎だけでなく、全国紙との違いを見てもらいながら勉強することは、玉城先生もおっしゃいましたがとても大事なことだと思います。比べてみれば全く違うものですので、そんなことで利用してもらえればいいのではないかと。

(平賀館長)

2階の改装も含めて、ショールーム、モデルルームというか、機能を見られる実験場として市町村立の図書館や市民のみなさんが訪れて参考になる場にできたらいいのですが。空間の名前はサブタイトルがついているようです。職員が苦勞して付けていました。

図書館分布マップは、図書館のホームページに掲載されています。それを使っていろいろ提案していきたいと思っています。気が付かなかったことが見えてくると思います。

(森泉委員)

「都道府県立図書館サミット」に参加しました。このような催しがこの長野県で開催されたことに大きな意味があったと感じました。

参加してみて、今までの県立図書館のあり方の議論をひとつ飛び越えたという印象を受けました。市町村の公共図書館として県立図書館のあり方が見えてきたように感じています。その中で、県立図書館がいろんな実験室になってみようという話がありました。市町村公共図書館がやってみたい活動があっても、実績がなく躊躇している時に、県立図書館が先進的に実施していただき、検証結果やノウハウを提供いただけるとありがたいと思います。

市町村公共図書館間でもお互いに教えあえばよいのですが、地域的に連携が進んでいる地域とそうでない地域があるように感じていますので、とりあえずは県立図書館を核としてつながっていくという方法が見えてきていますので、ノウハウ等の提供もお願いできればと思います。

県立図書館と市町村図書館の関係と市町村図書館間の関係が今以上にフラットな関係になればいろんなことがやりやすくなってくるので、県立図書館がそうなるよう仕掛けをしてくださっているように感じています。

(平賀館長)

図書館職員同士、館長同士が話をする機会がこれまであまりなかったと思います。森泉館長と塩尻市立図書館長が声掛けをさせていただいて、3年くらい前からようやく話ができるようになってきた。館長は数年おきに変わってしまいますので、職員たちのあいだでそういう話ができるようになってもらえればと思います。東信では、小諸市図書館が中心となって東信地区の職員が休みの日にご飯を食べながら話をするなどということをしているそうですし、ところどころでいい雰囲気ができているなと感じている。地域の中核館である小諸とか、塩尻とか、松本とか、飯田とかが頑張っていたらいいと感じます。

(山口委員)

感想ですが、信毎を取っていますけど、信毎の文化的な記事で一番多いのが飯田、次いで松本、塩尻、伊那ですが、それは1階の床のところの地図の図書館の分布密度と一致している。新聞記事を見ていてああいうものに表れていると感じた。木曾で仕事をしていますが、公民館図書室はあるが、本当の図書館はなく、知の拠点は本当はないと感じた。

今日見させてもらって一番感心したのは、サイレントコクーン（みんなの書齋）で、初めて知ったのだが個室で資料を持ち込んでああいうところでは素晴らしい。使う人はわずかかも知れないが、非常に大事なことだと感じた。ビックリしました。敬意を表したい。

今、私は木曾で林業教育に関わる小さな史料館をやっていますが、かつて木曾山林高校に残されていた大正元年からの資料をきちんと後世に伝えていきたいという思いでやっています。全くPRをしておらず、週1回しか開けていないので2年間で800人くらいしか入館者はいない。ホームページをつくっても3,000回のアクセスがあったくらいささやかな館です。来館者からは「こんなものが

あったのか」、「なぜもっと宣伝しないのか」と言われたが、情報化の時代の中で、インターネットに繋がったとしてもすごい情報の中で、どう本人の意思で選び出すかという難しい問題であると感じている。史料館には山林高校の林業書の新しい図書は、木曾清峰高校にいておりまして新しい物はないのですが、大正、昭和初期のものがいろいろな方から寄付をいただいてありまして、それを登録台帳を見直しながら整理しています。こういうものがありますよということをお知らせすることに意義があるのではないかと。こういうものがありますという一覧表を作りたい、やりたいという話がある。

(平賀館長)

地域の図書館の基盤の格差については、特に長野市においては県立長野図書館を考える上においても、長野市ともしっかり話を進めて行かなければならないと思っています。県立長野図書館と長野市図書館という巨大図書館が二つ長野市にあるわけですが、どうやって議論をしていったらいいのか悩ましいところなんです。

木曾谷には現在図書館はありませんが、今度木曾町に図書館ができます。エントランスの床地図ではオレンジ色の丸があったと思いますが、あれは公民館図書室です。これまで公民館図書室を図書館にしようということで働きかけをしてきましたが、それぞれの町村の事情がありまして大きくは進みません。それはそれとして、公民館図書室の活動をしっかり支援していきたいと思っています。大桑村や立科町など、へたな図書館よりもよほど図書館らしい活動をしている公民館図書室は県下に多いと思います。

資料の活用については、県立長野図書館の閉架書庫の資料を自由に閲覧していただければいいな、と構想ですが思っています。木曾山林高校の史料館ですが、県の資料だと思いますが、書誌と一緒にして何とか公開したいですね。県立歴史館にも図書室がありまして、そうしたところや信濃美術館とかの図書館をつなぎきれていないのが現状です。県立長野図書館の業務システム更新が平成30年後半に予定されており、そのタイミングでそれらと連携していきたいものです。歴史館や埋蔵文化財センターとは話を始めようとしているところです。実際のところ、お金や人の問題がありますけれど、そういったものを統合して見ていただく、使っていただく関係というものを進めて行きたいと思っています。

山林高校の史料館は2年間で週1回800人とはすばらしいですね。資料を利用させていただき県内で企画展を一緒にやらさせていただければと思います。よろしくお願いします。

(山口委員)

具体化していただければ、とても貴重な資料だと思います。

(山崎委員)

一階の地図で、長野県の図書館の位置がよくわかり、南の地域で図書館が多いということが分かりました。私も司書教諭部会でやっていますが、南の方の中学校の先生が素晴らしい報告をされているので、あーこういうことがあるのだと目に見えて分かりました。

2階のスペースも入った瞬間、とてもいい空間だと感じました。学校関係者ということで、もうじき夏休みになるわけですが、県立図書館では山の日になんだ展示をされていますが、小中学生、高校生は市立図書館の方へ必死になって勉強に行くわけです。県立図書館で学生相手のイベントというか、そういう企画をやっている学校には情報が入ってこない。わたしは委員をやっているのでもここに来て見ているのですが、校内に県立図書館の話題がなにもないということで非常に残念に思っています。2階企画展での学校登山で登った山はどこですかというアンケートは、中学生なんかは食いつくような内容ですし、大人の人が昔登った山についてのアンケートなども同じで、そういったことを県全体に向かって発信できればいいと思うのですが。

(平賀館長)

子ども向きのプログラムは、今年はまだやっていません。去年は、職員の企画力向上の機会でもあり、変化するということを内外にアピールするためにも、多くのイベントを小学生に向けに行いました。

ただし、県立図書館にとっては、200万県民に対するサービスをどうするかということが第一のテーマです。ここで企画展なり、プログラムとしてやったことをパッケージにして、それを他の市町村立図書館が活用できるようになるところまで詰めていきたいと思えます。

一方で今年は、夏以降に信州学を切り口に取り組みます。県下の高校で信州学が始まります。それに対して図書館はなにができるかを試行します。学校・学校図書館と市町村立図書館・県立図書館の連携を考えていきます。モデルとして松本県ヶ丘高校が手を挙げていただいたので、松本市中央図書館と県立図書館と高校が一緒になって生徒のために何をやっていけるのかということを始めしていきます。ちょうど今日、生徒向けに講演会がありその企画もお手伝いしました。信州学に関わって県立図書館が、市町村立図書館がどのようなことが出来るか研究し、時期が来ましたら全県の高校に展開できたらいいと思えます。

(玉城会長)

一通りお聞きしましたが、ほかになにかございますか。

(小林委員)

せっかく図書館の概要をお送りいただきましたので、これについてもご意見を述べさせていただきたい。今は28年度の事業と今後のことにつきまして私たち議論し申し上げているわけですが、27年度のなかで18ページにインターンシップの状況が記載されています。7月9日と12日に裾花小学校3年生が2回1日ずつ研修、社会科学習ということで来ています。図書館は開かれたところで頑張っているけれど、その裾の広がりがないといけない。小学生とか中学生の社会科学習の中に県立図書館の見学というものをあえて繰り返し入れてくださいということをお願いしたい。せっかく改革されて開かれた図書館になったのに、子供達の目にふれないということになりますので。学校の図書館ではこの広がりが見えません。大きくなったら自分で来られるかもしれないし、お父さん、お母さんに連れてきてと言うかもしれない。ですから、子供達の社会科学習など何でもいいので県立図書館に見学に来ませんかというアピールを出していただきたいと思えます。

裾花小学校とか近所の学校しか来ていませんので、県立図書館がもったいない。もうすこしPRしていただき、先を見て、図書館ってこうなっていて、こう使ってくださいと、大きくなる子供たちには是非勧めたいと、27年度の資料を見させていただきました。

(玉城会長)

より具体的で分かりやすい提案ですけど、図書館としてはどうですか。

(平賀館長)

前に公園がありまして、遠足のこどもたちが雨が降ったときの代替策として来館することもあります。なかなか子供たちにアピールできるものが県立図書館にはなくて、わかりやすく伝えていくことが難しい面もあります。この夏もイベントを行うが、定期的に社会科学習としてプログラムを提供していけたらなと思えます。

(玉城会長)

ほかはないでしょうか。

(下平次長)

先ほど、玉城会長さんからお話がありました関係で、建物の耐震化工事は平成27年5月に完了しています。昨年、外壁の調査を行ない、レンガが剥離している箇所があるとのことで、本年度改修工事にいくらかかるのかの予算要求するための調査を行ないました。

(玉城会長)

老朽化対策については、総務省の意向に沿って行っているわけですね。

(下平次長)

県としては、ファシリティー・マネージメントということで、県施設の適正な管理を進めており、その必要に応じて順番をつけて計画的に耐震化、修繕を進めています。



(玉城会長)

10年間計画というような長期的なスパンでの計画をお願いしたい。

(平賀館長)

建物が出来てから37年近く経過しており、通常の使用でいけば、後10数年で耐用年数に達する。その時まで、どのような公共空間が求められるのか、もっと大きなものにするのかとか検討をしなければならないのかもしれませんが。図書館がどうあるべきかを含めて話をしなければならないし、長野市全体の図書館のことも考えなければならないところにきているのかなと感じています。地域全体、社会全体で議論できるようになることが課題だと思います。

(玉城会長)

多岐にわたる事業をする中で、それもやってくださいというのはきついかもしれない。先のことを見越して言っていただきたいものと、現実的に対応していただきたいもの両方お願いしたいということで申しあげました。是非よろしくをお願いします。

(平賀館長)

協議会でもそういった議論をしていただき、みなさんの夢を叶えていただけるといいなと思います。

(玉城会長)

他に、いかがでしょうか。じゃあ、議題3に移っていいでしょうか。議題2まで終わりましたので、その他ということで事務局の説明を求めます。

(下平次長)

本日の出席者名簿にも記載してございますが、協議会の委員任期は2年となっております、任期は平成28年12月末となっております。平成28年12月までに新しい委員さんを選任し、平成28年度の第2回目の協議会を開催することになります。2年間委員の皆様には、図書館の運営に貴重な意見をいただきありがとうございました。次期の委員に引き続きお願いする方もあるかもしれませんが、よろしくをお願いします。

(玉城会長)

これで、会議を終了します。

(平賀館長)

本日は、いろいろな御意見をいただきまして本当にありがとうございました。限られた人、予算、時間の中で、やりたいことはたくさんあるのですが、なかなか思うようにできていないのかもしれませんが。しかし、この図書館だけでなく、県内の図書館と一緒に考えようという人たちが増えてきていると思います。そうした機運や期待が、できればもっと広く一般の市民の人たちにも広がっていったらいいなと思います。そういったあたりを中心として、先ほど森泉館長からも公共図書館の実験室になってほしいというお話がありましたが、そういうことにチャレンジしながらやっていきたいと思えます。引き続き皆様方から、御意見、御提案をどうぞよろしくをお願いします。本日は、どうもありがとうございました。